

医療費助成 継続訴え

県腎臓病協議会が大会
羽島市

NPO法人県腎臓病協議会(加藤健児会長)の第13回大会が、羽島市竹鼻町丸の内、不二羽島文化センターで開かれた。会員ら約300人が参加し、県の重度心身障がい者医療費助成事業の継続を求める大会宣言を採択した。

同協議会は県内の透析患者やその家族ら約2800人で構成。医療水準の維持や慢性腎炎に関する啓発などに取り組んでいる。

加藤会長は「透析患者を取り巻く環境は厳しく、医療費自己負担はすぐそこまで来ている」と語り、組織拡大に努めると決意。重度心身障がい者医療費助成制度の2018年度以降の継続を要望する



組織拡大に向け、決意を語る加藤健児会長＝羽島市竹鼻町丸の内、不二羽島文化センター

大会宣言を採択した。透析を始めて40年の中村善春さん(70)＝高山市国府町＝が経験を語り、治療技術の変遷を振り返ったほか、松波総合病院心臓外科血管センター長の熊田佳孝さんが「透析患者と血管障害について」と題して講演した。

(亀山大樹)